

59. 現有入浴場においての入浴介助の工夫と改良点

国立療養所東埼玉病院

荏原 富美二 加藤 栄子

農中 裕美 渡辺 幸子

〔はじめに〕

当院PMD児は、南北東の3病棟に分れ、南北の病棟はS45年開棟ブロック体制で日常生活の援助が行なわれている。東病棟はS49年に開棟され、4年目に入るが特に入浴介助など患児の年々の成長、あるいは重症化に伴い、現在の浴槽では不便を感じるようになった。又、病棟替えによる患児の移動があり、そこで生じた種々の問題点、それらに対し行われた検討など、これらの経過も含めこれからの改良すべき点などについて述べたいと思う。

〔結果〕

当病棟はS49年5月に開棟され、天野式特殊浴槽2台が設置されスタートした。最初、歩行児半数以上の軽症者ばかりだった為、この重症者向けの浴槽一台の簧の子を作成し試みた。小さい児らにとっては浅い間に合わせのこの浴槽も、珍らしさもあってか、楽しいスキンシップの場となったようである。車椅子児には臥位で使用したが、次のような問題点が生じた。

問題点（天野式浴槽）

- ストレッチャーが低い。
- 仰臥位の為の不安感。
- 枕の部分がステンレス製の為の疼痛、冷感。
- 身体の固定がしにくい。
- 胸部の露出。

このような問題点ばかりの状態ですらでも介助していく訳にはいかず、他にもっと良い方法はないかと考案されたのが、OG式浴槽である。

図1

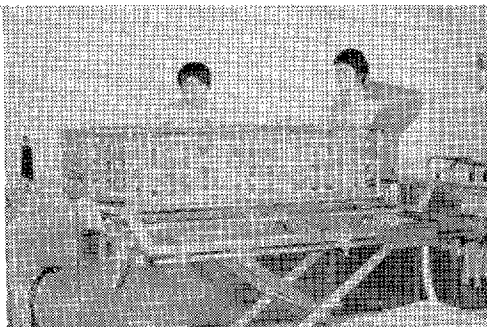
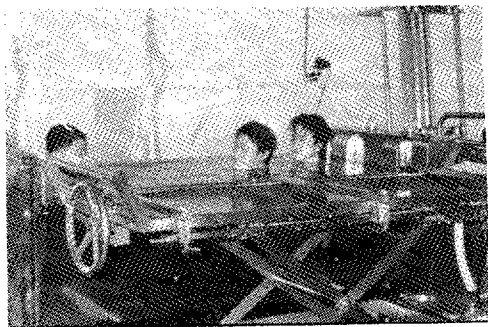


図2



原型の二人臥位用担架を、当病棟の患児に合わせ、何人も坐位で入れるよう、かご状に特別に改良したもので、大変好評であった。しかし、その後51年6月に病棟替えがあり、障害度の進んだ患児へと大部入れ替わり、次のような問題点が自立し始めた。

問題点（OG式浴槽）

- 浴槽又はストレッチャーの高さが高い為の不安。
- 重量制限がある（100 kgまで）
- 浴槽より肩が出る（坐高の高い患児）
- ストレッチャーの上下移動が手動式の為、労力がある（介助側）

特に「浴槽より肩が出る」は寒い冬期には感昌の心配もあり、一時的にタオルをかけて保温をはかったり、しばらく上がり湯専用になっていた天野式浴槽を再び試み始めた。

まだまだ残る種々の問題に対し、一番良い方法を業者とも検討中であるが、浴槽自体の改良へいくまではかなり時間がかかりそうである。その他で工夫できるところはないかと考え、

- ① 浴槽上部排水口にゴムを取りつけることにより、少しでも肩がかくれゆったり入れるようにした。
- ② 何人も入っている場合中央の尻にシャワーが届かないこともあり、シャワーの延長。
- ③ 邪魔になりがちな石けんの置場所に市販の吸着用石けん入れの利用。
- ④ 上がり湯専用になっている天野式浴槽の方も湯のくみだしは一苦労である。そんなところへ簡易シャワー等を試みた。

これら小さな工夫も仲々の好評であるが、何といたっても浴場と浴槽が一番の問題でありこれらの改良が早急に望まれる。更に検討を重ね、そして理想の入浴へ近づけたいと思う。

60. 浴場の改良を実施して

国立療養所川棚病院

中原 フサエ 淵 上 勝 海
嘉 林 宏 義 鈴 田 久 利
他南病棟勤務一同

患者は年数の経過と共に身体の著しい変型、拘縮を表わし、又障害度も進行する。それに随伴して、体型も肥満する場合あるいは、るい痩する場合もある。そのため入浴介助、設備等に問題が生

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

〔はじめに〕

当院 PMD 児は、南北東の 3 病棟に分れ、南北の病棟は S45 年開棟ブロック体制で日常生活の援助が行なわれている。東病棟は S49 年に開棟され、4 年目に入るが特に入浴介助など患児の年々の成長、あるいは重症化に伴い、現在の浴槽では不便を感じるようになった。又、病棟替えによる患児の移動があり、そこで生じた種々の問題点、それらに対し行われた検討など、これらの経過も含めこれからの改良すべき点などについて述べたいと思う。